

第282回くらしの植物苑観察会 令和4年9月24日(土)

「身近なシダ植物とその生態」

水野 大樹 (千葉県立中央博物館 企画調整課 副主査)

花をつけず孢子で繁殖するシダ植物は、似た形の種が多く、見分けが難しい植物のグループの一つです。今回の観察会では、街中や公園などで見られる種を中心に、シダ植物の特徴や見分けるポイント、また、シダ植物のふしぎな生態についても解説します。

1 身近なシダ植物の特徴と見分け方

シダ植物は細かく切れ込んだ形をしたものが多いですが、たくさんの葉がついているのではありません。いわゆるシダ植物の形をした部分は、実は1枚の葉なのです。切れ込みの程度によって、大まかにシダ植物を見分けることができます。また、葉の裏についた孢子のう群の形やそれを覆う包膜の形も、見分けるのに重要なポイントになります。実物のシダ植物を見ながら仲間分けをしてみましょ。

2 孢子の散布と前葉体を観察してみよう

シダ植物の特徴の一つは、孢子によって繁殖を行うことです。孢子は通常 0.03~0.06 ミリメートルと小さく、風で簡単に飛ばされてしまいます。しかし、風に任せて孢子を飛ばすだけではありません。孢子のうには自ら遠くへ孢子を飛ばすための面白い仕組みが備わっています。実際に孢子を飛ばす瞬間を観察してみましょ。

3 ふしぎな前葉体の生態

孢子が発芽すると、前葉体と呼ばれるハート形の配偶体が形成されます。前葉体には、造卵器と造精器があり、受精が起こると孢子体(いわゆるシダの形の部分)が形成されます。前葉体は非常に小さく、野外では見つけにくいものですが、その生態を調べてみると、生育環境に適応したふしぎな生態が見えてきます。観察会では、演者の研究成果から、前葉体の生態のふしぎに迫ります。

次回予告 第283回くらしの植物苑観察会 令和4年10月22日(土)

「魔除けの植物文化」 辻 誠一郎氏

(東京大学名誉教授)

13:30~15:30 くらしの植物苑 東屋 申込不要 定員30名